



〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026 URL http://www.utsunomiya-u.ac.jp
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ

NOW

● vol.15

発行：宇都宮大学
編集：広報室

CONTENTS

- 1 共に生きる
- 2 『Tea Party』とは?
- 3 宇都宮大学のロゴマークが決定
- 4 地域貢献REPORT
- 5 SLOW FOOD
- 6 学生アンケート「宇大生は今!」
- 7 INFORMATION
- 8 研究 Keyword



共に生きる

異質の文化を知ることの 楽しさと大切さを知る

日常生活に困ることの多い定住外国人たちを日本人と同じように社会の「員」として迎え入れるために、何が出来るのか。12歳までアルゼンチンで過ごし、スペイン語に堪能な福田美和さんが取り組んでいるテーマです。私自身、小学校まで過ごした中国から戻り日本での生活に溶け込むまで、役所や警察の方々々に相談に乗っていただいた経験があります。同じ帰国子女としてお会いするのを楽しみにしていた福田さんは、国際学部の卒業生らしく行動的で、異質の文化を知ることの楽しさと大切さを知る、とても素敵な女性でした。(取材/国際学部4年・連池秀美)

■いまでも社会人入学したい

国際学部2期生。学部草創期の学生時代は、すべてが未知数で手探りの状態だった。当時は「数えられるほどはいなかった」という留学生は、現在、3百人を超えるという母校の変貌ぶりに、思わず「すごい」と声を弾ませる。

いろいろな国の文化を知ることができた大学の授業は、「いまでも社会人入学したいくらい」楽しかった。「勉強をしているという気がなくて、何か、趣味を満喫している感じでした」と学生時代を振り返る。「聞いていいですか。留学生でなければ外国人は大学に入ることができないのですか。日本で教育を受けている外国人が、そのま

■日本の大学に進むことはない

「それは、日頃接している定住外国人の想いでもあるのだろう。今春から「外国人共生対策事業」の実践役として真岡署に配属された。真岡市は人口に占める外国人の割合が、栃木県内では高い自治体だ。真岡署に配属されたのが、ブラジル人学校での防犯講話だった。「ブラジルの母国語である」ポルトガル語は話せないのですが、スペイン語に似ているので、ゆっくりと話せば通じ合います」と微笑む。

仕事ぶりが、スペイン語の新聞で紹介されたことから、福田さんを頼りに県内外から相談が寄せられる。時には、「離婚したいんだけど、どうすればいいの」

■この国も、みんな素敵

父の赴任先であるブエノスアイレスで生まれる。現地の学校に通い、日本語を使うのは家にいる時だけだった。牛肉を「キロ単位」で購入する習慣をよく覚えていた。「アルゼンチン人は大らかで楽しい国民です。それに対し日本人は律儀で、丁寧な言葉を使っても、尊敬語や謙譲語があつてすごい。この国の人も、みんな素敵です」。

大学在学中、スペイン、オーストラリアで語学研修を体験した。「日本に帰ってきてからは

■あなたがいて、助かった

「アルゼンチンで暮らしているときは、どこに行っても「外人」と言われていました。日本に帰ってからも、「日本語がへん」と言われ、いじめられたことがあります」。

だから、異国で暮らす人たちの気持ち、よくわかる。「真岡に住む外国人は日系のペルー人やブラジル人が多いんです。けれども、その人たちのルーツをたどれば、私たちと同じ日本人です。しかし、「外人」という目で見られてしまう。日

■お聞きしたい

本人と変わりは無いのに、ちよつとした誤解からトラブルに巻き込まれてしまうことがあります」。

そんなとき「あなたがいて、本当に助かった」と言う言つても、伝えることがうれしい。「いまは、真岡市内だけでしか活動はできませんし、小さいことですが、せめて、その中でも、(定住外国人と日本人の窓口として)もっと近くで、寄り添っていただけたいなと思います。『ルーツは、同じ日本人』ということを感じられ、温かく迎えられる社会をつくりたいから」。

その想いは、決して、小さなことではない。

(文・ピオス編集室/撮影・木原悠葉)



栃木県真岡警察署 巡査部長

福田 美和

Fukuda Miwa

【ふくだ・みわ】1977年アルゼンチン共和国ブエノスアイレス市に生まれる。01年宇都宮大学国際学部国際文化学科卒業。同年、栃木県警察官採用。同年9月宇都宮中央署馬場通交番、02年宇都宮中央署刑事課、05年警察本部刑事部機動捜査隊、08年真岡警察署生活安全課勤務。現在、外国人共生対策事業を推進中。

CAMPUS



●出席者

若山俊介/宇都宮大学留学生センター 副センター長・教授
張 悦 (チョウ・エツ) /国際学部交換留学生 中国
林 冉冉 (リン・ゼンゼン) /国際学部交換留学生 中国
Ali Parchamy Araghy (アリ・パルチャミ・アラギー) /工学研究科博士
後期課程2年 イラン
Jargalsaikhan Gan-Od (通称ガナー) /工学部4年 モンゴル
南 祐炫 (ナム・ウヒョン) /国際学部交換留学生 韓国
阿部和也 (アベ・カズヤ) /国際学部4年
田村幸子 (タムラ・サチコ) /07年国際学部卒

●司会

高橋和廣 (宇都宮大学企画広報室)

■Tea Partyとは?

03年4月から始まる。原則的には毎月第2、第4金曜日の夜、峰キャンパスで開催。参加自由で、留学生、宇大の学生以外も参加できる。参加者は留学生、日本人学生ほぼ半々で、多いときは100人を超えることも。「Tea Party」といってもアルコールも飲むし、時には歌ったり踊ったりの楽しい集まり。参加無料。費用(飲食代)は若山教授のポケットマネーとカンパでまかなわれている。

年内の開催は、11月14、28日、12月12日の予定。

座談会

留学生たちの交流と安らぎの場『Tea Party』よびへ。

生活習慣や考え方の違いなど、異国の生活にさまざまな悩みを抱えている留学生のために、ストレス発散の場をつくらうと、宇都宮大学留学生センターの若山俊介教授が2003年に立ち上げた『Tea Party』。いまでは「宇大の留学生で知らない人はいない」と言われるまでに育った『Tea Party』の魅力を語っていただいた。

まず、宇都宮大学に留学することになったいきさつを聞かせてください。

南 東京でアルバイトをしながら日本の勉強をしていたのですが、昨年、韓国の大学の同級生が宇大に入学し、私も宇大に入学したいと思うようになり、今年4月から宇大に通っていますが、それ以前にも友達に会うために何回か宇大に来ていました。ティーパーティーにも入学前に2回くらい参加してました。

張 中国の大学と宇大が交流協定校で、交換留学生として来ました。仲の良い先輩が宇大に留学していて「すごくいい大学」と聞いていましたので

林 私私も交換留学生です。同じ大学のクラスメイト3人で宇大に来ました。宇都宮は地震も少ないし、安全で住みやすいところだと思います。

南 日本に来る前はイタリヤに行きたかったのですが、宇大の工学部に留学していた姉に会うために宇都宮に来て、そのとき、いま大学でお世話になっている先生を紹介してもらい、いろいろ話を聞けたことがきっかけです。一度イランに帰って、その後研究生として宇大の大学院に入学しました。大学院で2年間学んだ後、他の大学に進むチャンスもありましたが、その後も宇大で過ごしたかったので、博士課程に進むことを決めました。



南 祐炫



林 冉冉

ガナー 香川県の高等専門学校で学

んでいたのですが、大学に進学しようと思いいろいろ調べて東京にも近い宇大の工学部に編入することを決めました。

楽しい思い出を持って帰国しよう

若山先生、ティーパーティーを始めきっかけを聞かせてください。資金的にも苦界があるかと思いますが。

若山 留学生は、いつもホームシックになるからならないという不安定な精神状態にあるという話を、私自身のドイツ留学の経験からも強く感じましたので、留学生には気晴らしが必要だと考えました。ドイツでは、しょっちゅう、ばか騒ぎできるパーティーを開いていて、「いいなあ」と本当に思っています。宇大でもできないかと考えたのです。

まずは、ドイツ人と日本人7、8人で始めました。回を重ねるごとに学内ばかりではなく学外からもお手伝いしてくださる方が増えてきました。資金援助をしてくださる方もいます。田村さんには、餃子、お好み焼き、おでんなどパーティーに出す料理をつくることまで手伝っていただいています。阿部くんにはいつも買

い出しに行ってもらって随分助かっていました。



張 悦

田村さん、ティーパーティーと阿部さん、ティーパーティーを知ったいきさつを聞かせてください。

田村 私は宇大の国際学部に入社しました。若山先生が留学生と交流をすることは知っていたのですが、在学中はティーパーティーには参加できませんでした。卒業後、個人で留学生と宇大生、地元の人たちとの交流活動(チャット・CHAT・火曜日)をしています。せっかくなので宇大に来たのだから日本のこと、特に宇都宮のことをもっとよく知って、楽しい思い出を持って帰国してもらいたいという想いがあり、ティーパーティーにも顔を出させてもらうようになりました。私たちの活動にも留学生に参加してもらい国際交流の輪が広がっていいかなと思っています。

教科書には書かれていないことを学ぶ

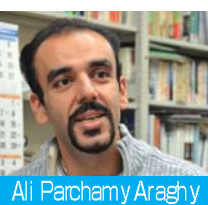
日本の学生は、サークルに入ると友人を見つけることが多いと思います。留学生は日本語の問題もあるし、サークルに入っていくという人はあまりいないのです。

南 私は日本舞踊、ジャズ、テニスのサークルに入っています。サークルも確かに友達づくりにはいい場所です。私は4月に来ましたから、サークルも新しい人を募集して



Jargalsaikhan Gan-Od

なり、勉強したいと思っていた教授のいる宇大の国際学部に入社しました。ティーパーティーは先輩に紹介してもらいました。留学生という意識ではなく、ふつうの友達として付き合い合ってきました。ティーパーティーがきっかけでプライベートでも留学生と遊ぶようになりました。



Ali Parchamy Araghy

阿部 僕は協力者という意識はなく、楽しいから来ています。一参加者です。宇大に入学する前は埼玉県にある国際系の短期大学に通っていましたが、そこは留学生が少ないこともあり他の大学への編入を考えるように



阿部和也

ガナー 友達に誘われて行ってみたら、本当におもしろかった。いろんな国の友達が出来ました。いま、宇大の留学生で、ティーパーティーを知らない人はいません。林 私にとってはリラックスできる場所です。ガナー ストレス発散です。若山 留学生同士でも、同じ国で固まらないで、いろいろな国の人と話せる出会いの場ができてきかるといいます。日本の



CAMPUS



学生も対等の立場で参加して、留学生と一緒に飲んで、食べて交流を深めています。

阿部 留学生同士はふだん英語で会話してしまうけれど、

ティーパーティーでは、雰囲気

がそうさせるのか、日本語で留

学生同士も会話ができるし、日

本人とも会話できるのがよかつ

たと話していました。

阿部 研究室などでも友達があ

りました。ティーパーティー

が一番フレンドリーな感じがし

ます。教科書には書かれていな

いことを学ぶことができます。

南 料理も文化です。一緒に料

理をつくるのがいい文化交流

になっています。東京にいる後

輩をティーパーティーに誘って

韓国料理をつくり、みんなに食



田村幸子



若山俊介



「みんなが手伝って料理をつくるからコミュニケーションも生まれる。差し入れも大歓迎しようね。」

若山 大歓迎です。季節の野菜やお餅を持って来て下さる方がいます。

若山 うれしいですね。南くんも宇大生

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

若山先生、ティーパーティーのこれからについて聞かせてください。

若山 私が統率力をもってあれやれ、これやれというようなことは全くやりたくありません。みんなが好きなきときに集まって自由話をしている、自然な雰囲気です。続けられることが一番。自発的に何か出てくることを期待しています。

ティーパーティーは、呼び集められたのではなく、みんなが自発的に集まってくるという感じがあります。

阿部 僕のは先輩は、ティーパーティーで知り合ったロシア人と結婚しました。

若山 韓国の男性が日本の女性と結婚しましたし、これから結婚するだろうというカッブルもいます。

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

「自然な雰囲気、続けられることが一番」

高橋和廣

T O P I C S

宇都宮大学のロゴマークが決定しました。



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

最優秀作

宇都宮大学の「宇」は宇宙の「宇」でもあり、「宇」の漢字をシンボライズしました。宇宙まで広がりゆく心構えを、銀河系のような拡張性・発展性のあるイメージに込めました。国際社会の中で日本の大学であることの誇りを漢字でデザインしました。このシンボルマークは、伝統を大切にしながら、常に時代の流れに合わせて進化し続けてきた宇都宮大学の「これまで」と「これから」を象徴しています。

原作者 鈴木裕也氏 岡田拓也氏

優秀作



宇都宮大学の伝統ある校風を、無駄な装飾を一切排除したデザインで表現しました。2つの「U」は、「UTSUNOMIYA」と「UNIVERSITY」を表し、ボリュームに変化をつけました。さらに、洗練された知を想起させるべく、緊張感のある空間を作りバランスをとりました。新たな知を世界へ発信していく宇都宮大学に相応しいロゴになるよう制作しました。

原作者 佐藤 純氏

優秀作



UTSUNOMIYA UNIVERSITYの頭文字「U」を左半分と右半分に輪に見立て、それぞれが絡み合うイメージは、幅広く深い教養と高水準で特色のある研究を推進する「無限の可能性」を表したものです。右への傾きは先進的で洗練された豊かな人間性を表現しています。紺色は「堅実で豊かな人間性」を、水色は「未来を切り開く知力と行動力」を表しています。

原作者 中村孝治氏

優秀作



宇都宮大学(Utsunomiya University)の頭文字「U」と「U」をモチーフに組み合わせて印象深い笑顔を描きました。学生と先生、学生と地域の人々が融合し、世界に羽ばたく願いを込めたデザインとしました。

原作者 小柴雅樹氏

宇都宮大学は「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ。」をキャッチフレーズに、教育研究の充実、地域貢献及び産学官連携など、魅力ある大学づくりを進めています。

一昨年の11月から昨年1月にかけて、これからも躍進し続ける宇都宮大学をイメージしたロゴマークを募集しました。応募総数は663作品あり、水本企画戦略担当理事を委員長に学生委員4名を含む13名の選考委員会で、第1次選考、第2次選考、最終選考を経て、最優秀作品1点、優秀作品3点を選出しました。

商標出願するにあたり、原作者より著作権譲渡を得、登録手続をしてまいり

ましたが、この度4点とも登録できましたので発表いたします。

現在、取扱いガイドライン、デザインマニュアルの制定を進めている段階であり、まだロゴマークを使用することはできません。詳しくは企画広報室までお問い合わせください。

PROCESS

2006年11月1日	宇都宮大学ロゴマーク募集	2007年9月25日	特許庁へ商標登録出願4件を提出
2007年1月31日	募集締め切り	2008年9月16日	4件とも商標登録済み確認
2007年3月20日	選考会で最優秀1作品、優秀3点を決定	2008年10月7日	発表
2007年6月20日	著作権譲渡契約完了	2008年11月22日	表彰式

宇都宮大学 地域貢献

REPORT 産学地域連携課

地方自治体との地域連携について

高根沢町、平成19年に宇都宮市と日光市との間で「連携協定」を締結しました。

一方こうした自治体等と連携活動を一層推進することもあり、私どもは、平成19年4月に産学・地域連携のワンストップ窓口として「産学地域連携課」を設置しました。

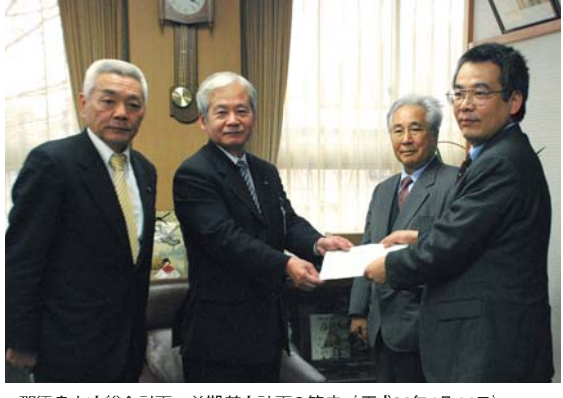
本学は地域に必要とされる大学、無くてはならない大学として地域社会における喫緊の課題に協働して解決に当たることが、地方大学の重要な使命であると考えております。

以下では、

本学と相互友好協力協定（地域連携協定とも呼ぶ）を結ぶ4自治体との連携を紹介することで、自治体との連携の一端をご理解いただけたらと思います。

宇都宮大学は、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」をキャッチフレーズに、「地域に学び地域に返す、地域と大学の支え合い」をコンセプトのもとに、地域連携を積極的に推進しております。

平成17年10月1日に鳥山町と南那須町の合併により発足した那須烏山市は、合併に伴いさまざまな行政課題を抱えているとのことでした。特に本学は、同市に対して、企業相談・支援、特色のある町おこし、那珂川を中心とした自然環境保護と観光振興地域の教育支援を通して、課題を解決することで実践的な教育



那須烏山市総合計画・前期基本計画の答申（平成20年1月11日）

平成17年度（～平成18年度）に自然環境基礎調査、住民主体のまちづくりのあり方、高根沢町子育て支援ネットワーク共同研究等を進めており、今後とも自治体をあげて全面的に協力いただける町として協定を結ぶこととなりました。

平成19年度以降は教育学部が環境教育の一環として地域の草木素材を活用した染色教材の開発とその普及を進めています。

今後は、自然環境基礎調査をもとにした環境教育の教材づくりを通して産学振興にも一役買いを、本学のカリキュラムの中に位置づけた環境教材開発に大きく貢献することを期待しております。

さらに、NPO法人等の市民ボランティアとの協働についても引き続き研究テーマの対象となることで、行政経営と環境に配慮した教育に協力することを通じて、新たな学術研究の題材として同町の協力は不可欠なものであり、今後とも一層の協力をお願いしたいと思います。

また、教育連携の一環として、平成18年度から出前授業「サタデースクール」に教育学部の学生が派遣され大きな成果を上げています。

宇都宮市との連携の特徴は、本学が所在地としていることもあり、従来から他の自治体より多くの分野の事業を手がけております。近年の事業の中で特徴的なものは、「テクノボリス」間を結ぶ都市交通としてLRT等を基幹線とする都市計画「コンパクトシティ」への参加、また平成18年に同市教育委員会と教育学部とが連携協議会を発足させるなど、互いの専門性を生かし一層の連携を図るようになりました。

また、本学では、地域の行政経営や教育の課題に取り組むことで、実践的な教育研究に結び付け、地域社会のリーダーを育てたいと考え協定を結ぶこととなりました。

なお、全体で60あまりある事業内容のうち、共同研究・共同事業として新たに取り組んでいる内容を以下にご紹介します。事業全体については社会連携推進機構ホームページ（最下段）をご覧ください。

平成20年4月よりテーマごとに各所管課の市職員がリレー形式で講義する「実践！宇都宮まちづくり講座」が開講されました。市町村職員だけで行う講座は全国国立大学法人で初めてのことで、次年度は大学コンソーシアムとちぎ連携講座にも登録授業科目として

宇都宮市との連携協定の特徴

提供されることが決定しました。また、大学生による「まちづくり提案」に毎年参加し高い評価を受けていますし、教育学部美術教育専攻学生が栃木SC応援ストリート横断幕等のデザイン制作をしました。

さらに、自治体・大学・地域の連携に関する調査研究をまとめたブックレットが平成20年2月に刊行されました。

今後は、多文化共生や在住外国人の支援などに関する施策検討を行う予定です。

本学学生が足尾の緑化体験事業に参加していますが、日本の近代化に大きく貢献した足尾銅山の産業遺産を次代に伝えるため、世界遺産登録を目指しつつ、住民を主体として、大学、企業、行政（関係省庁）とが連携した協同のまちづくりを進める事業があります。さらには、高齢化集落における集落機能の実態等に関する調査研究等があります。

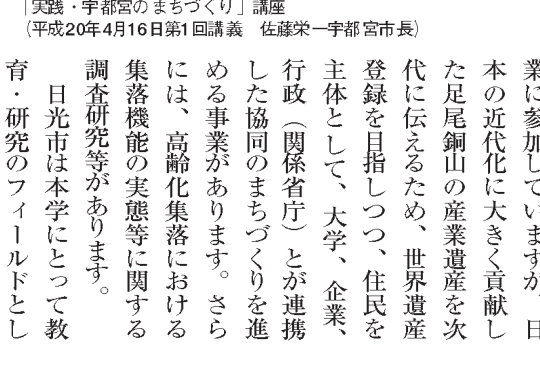
日光市は本学にとつて教育・研究のフィールドとして最高峰の地域であり、同市との今後の互いの協力発展に期待したいと思っております。

宇都宮市との連携の特徴は、本学が所在地としていることもあり、従来から他の自治体より多くの分野の事業を手がけております。近年の事業の中で特徴的なものは、「テクノボリス」間を結ぶ都市交通としてLRT等を基幹線とする都市計画「コンパクトシティ」への参加、また平成18年に同市教育委員会と教育学部とが連携協議会を発足させるなど、互いの専門性を生かし一層の連携を図るようになりました。

また、本学では、地域の行政経営や教育の課題に取り組むことで、実践的な教育研究に結び付け、地域社会のリーダーを育てたいと考え協定を結ぶこととなりました。

なお、全体で60あまりある事業内容のうち、共同研究・共同事業として新たに取り組んでいる内容を以下にご紹介します。事業全体については社会連携推進機構ホームページ（最下段）をご覧ください。

平成20年4月よりテーマごとに各所管課の市職員がリレー形式で講義する「実践！宇都宮まちづくり講座」が開講されました。市町村職員だけで行う講座は全国国立大学法人で初めてのことで、次年度は大学コンソーシアムとちぎ連携講座にも登録授業科目として



「実践・宇都宮のまちづくり」講座（平成20年4月16日第1回講義 佐藤栄一宇都宮市長）

日光市との連携協定の特徴

提供されることが決定しました。また、大学生による「まちづくり提案」に毎年参加し高い評価を受けていますし、教育学部美術教育専攻学生が栃木SC応援ストリート横断幕等のデザイン制作をしました。

さらに、自治体・大学・地域の連携に関する調査研究をまとめたブックレットが平成20年2月に刊行されました。

今後は、多文化共生や在住外国人の支援などに関する施策検討を行う予定です。

本学学生が足尾の緑化体験事業に参加していますが、日本の近代化に大きく貢献した足尾銅山の産業遺産を次代に伝えるため、世界遺産登録を目指しつつ、住民を主体として、大学、企業、行政（関係省庁）とが連携した協同のまちづくりを進める事業があります。さらには、高齢化集落における集落機能の実態等に関する調査研究等があります。

日光市は本学にとつて教育・研究のフィールドとして最高峰の地域であり、同市との今後の互いの協力発展に期待したいと思っております。

また、地域資源の活用やそれを生かした環境教育に関して、例えば、西の四万十川、東の那珂川といわれるように那珂川流域の自然要素を体系的に網羅することにより地域振興に役立てるだけでなく、那珂川水系の清流の保全と環境・観光、教育資源としての位置づけは大いに期待できます。

そして、もつとも重要なことは、こうした連携を通して、本学の教育研究が一層活性化することであり、私たちがそれを支援するとともに、各自治体のご担当の方々へ「大学の窓口を積極的に利用していただくことも一緒に発展しようではありませんか」という言葉をメッセージしたいと思います。

（産学地域連携課 飯島賢道）

*社会連携推進機構
http://www.renkei.utsunomiya-u.ac.jp/index.htm



足尾緑化体験事業に参加（植樹を初体験する参加留学生）

那須烏山市との連携協定の特徴

宇都宮大学は、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」をキャッチフレーズに、「地域に学び地域に返す、地域と大学の支え合い」をコンセプトのもとに、地域連携を積極的に推進しております。

特に自治体との連携にあつては、平成14年に自治体の支援依頼やコーディネート窓口として「地域連携協議会」（現在は、24自治体参加）を発足させるとともに、大学本来の教育・研究に対する活動を普段から活発に推進してきた自治体と組織的に連携を強化することもあり、平成17年に那須烏山市、平成18年

高根沢町との連携協定の特徴

高根沢町とは、次期ゴミ処理施設の立地調査及び新施設の研究として平成14年度から関わり、平成16年度には次世代育成支援対策推進事業地域行動計画策定



地域の草木素材を活用した染色教材の開発とその普及（藍の生葉染体験）

平成20年4月よりテーマごとに各所管課の市職員がリレー形式で講義する「実践！宇都宮まちづくり講座」が開講されました。市町村職員だけで行う講座は全国国立大学法人で初めてのことで、次年度は大学コンソーシアムとちぎ連携講座にも登録授業科目として

また、本学では、地域の行政経営や教育の課題に取り組むことで、実践的な教育研究に結び付け、地域社会のリーダーを育てたいと考え協定を結ぶこととなりました。

なお、全体で60あまりある事業内容のうち、共同研究・共同事業として新たに取り組んでいる内容を以下にご紹介します。事業全体については社会連携推進機構ホームページ（最下段）をご覧ください。

平成20年4月よりテーマごとに各所管課の市職員がリレー形式で講義する「実践！宇都宮まちづくり講座」が開講されました。市町村職員だけで行う講座は全国国立大学法人で初めてのことで、次年度は大学コンソーシアムとちぎ連携講座にも登録授業科目として

また、地域資源の活用やそれを生かした環境教育に関して、例えば、西の四万十川、東の那珂川といわれるように那珂川流域の自然要素を体系的に網羅することにより地域振興に役立てるだけでなく、那珂川水系の清流の保全と環境・観光、教育資源としての位置づけは大いに期待できます。

そして、もつとも重要なことは、こうした連携を通して、本学の教育研究が一層活性化することであり、私たちがそれを支援するとともに、各自治体のご担当の方々へ「大学の窓口を積極的に利用していただくことも一緒に発展しようではありませんか」という言葉をメッセージしたいと思います。

（産学地域連携課 飯島賢道）

*社会連携推進機構
http://www.renkei.utsunomiya-u.ac.jp/index.htm



霧降の山椒新芽の佃煮 — 自生する山の食材 —

夏のうだるような暑さの日に日光へ出かけてみると、日光の夏の涼しさがよく分かります。風通しの良い家の中で過ごしていると、涼しい風が吹きぬけ、まるで心地良いクーラーがかかっているかのような錯覚にとらわれます。秋は紅葉によって日本中の人を魅了し、そして冬は寒さの厳しい全く違った顔を覗かせます。日光の霧降高原は、日光の中でも特に夏は涼しく冬が厳しい場所です。またその名のとおり、霧がよく発生します。このような気候と霧が、霧降高原に自生する山椒の新芽を、美味しく育てています。



丘陵地に植えられた、新芽の収穫用の山椒の木々。そばに近づいただけで、山椒の香りが辺り一面に漂っていることが分かる。作業のしやすさからか、高さは2~3m程で統一されている。



生垣に植えられた山椒の木。山椒が持つトゲを利用して、家や畑の生垣のような場所に、防犯や害獣除けとして植えられている。

山椒はミカン科山椒属の落葉低木です。アゲハチョウの幼虫の食草でもあるため、アゲハチョウの幼虫や蛹を、山椒の木で見かけることがあります。また、鳥のモズが山椒のトゲに、自分の保存食として、カエルなどの餌を引っ掛けたりします。

山椒の実や葉は、多様な食材として、会席料理だけでなく、汁ものに香りを添え、味を引き立てるための吸い口として利用されています。そのほかにも、熟した実の皮の乾燥粉末（粉山椒）は、鰻の蒲焼の臭味消しの香料として、欠かせないものになっています。このように、山椒は、我々の食生活でいつも食べるものではありませんが、比較的身近なものとなっていま

す。栃木県では、日光のほかに那須でも山椒を利用した食材の生産が盛んです。



山椒の葉の表(上)と裏(下)。新芽が生える枝の根元に、新芽を取られないかのように、鋭いトゲが2本生えているのが分かる。このトゲが、手作業での新芽の収穫を困難にしている。万が一でも、トゲが新芽の佃煮の中に入ると大変なことになるので、収穫作業は慎重に行われる。

日光の山椒は、山椒が持つトゲのため、もともと家や畑の生垣のような場所に、防犯や害獣除けとして植えられています。そのため、山椒を大規模に栽培しているというより、ひっそりと育てているといった印象です。



山椒新芽の佃煮。自家製のものも多く、売られているお店でもその料理法や味付けはさまざま。封を開けた瞬間に、山椒の香りが広がり、食欲が増す。

今回取材させていただいた、栃木県の女性農業者の山本幸子さんによると、標高約900mといわれる霧降高原の南側斜面、ちょうど、霧がかかるところに生えている山椒の新芽が最も美味しい佃煮になるそうです。収穫時期は、毎年5月上旬ごろ、春一番吹きの新芽を、一人が1時間かけて、生え始めた枝の根元から約500g収穫します。これだけ収穫しても、最終的な製品は約130g程度にしかならないそうです。特に、新芽の横に

は、葉を取らせないようにトゲが2本左右に生えています。トゲが山椒の中に入ったまま食品として我々の口に入ってしまうと大変なことになります。よって、トゲによる怪我に注意を払い、トゲを山椒に混ぜないようにするための注意深い収穫作業が必要となります。収穫用として育てられている山椒の木は意外と高く、2~3m近くもあります。この山椒の木から収穫できる新芽の量は、1年間で約5kg程度だそうです。

一般に我々が食べる山椒の佃煮としては、実山椒の佃煮があります。一方で、日光の山椒の佃煮は、新芽が中心なので、新芽の持つ柔らかさを味わうことができます。日光では、昔から山椒の新芽を煮て食べる習慣があります。山椒新芽の佃煮の作り方は、シンプルです。鍋に山椒の新芽と塩を入れ、強火で炒りつけます。こちらでは「いびる」という調理法だそうです。炒りつけた山椒の新芽をザルに移して、水分を取り、再び鍋に入れます。それを、酒、醤油、化学調味料などで味付けし、水分がなくなるまで煮詰め、できあがりです。新芽の量が少ないときは、鍋の代わりにフライパンで炒ることもあります。ほかにも、山椒の木の内皮の部分と同じように調理した「きっからか」という食材があるそうです。これも山椒独特のピリリとした辛味が強くあります。昔は、山野に住んで修行する僧である山伏がよく食べる食材として利用されてきましたが、今はほとんど作られなくなりました。



山椒の木の内皮から得られる「きっからか」。数が少ないので販売はされていない。山椒のピリピリ感が恐ろしく強く、山椒の刺激を味わうには、1mmほど置れば十分！

私も、この山椒新芽の佃煮をさっそくいただきました。まず、パッケージを開けた瞬間の香りの良さにクラクラしました。収穫に手間がかかっていることを知っていたので、少しずつ噛むようにして味わってみると、山椒独特の香りとして、ピリピリ感が口の中で広がり、夏の暑さで緩んだ気持ちが一気に締まってくるのが分かります。山椒新芽の佃煮は、そのまま食べても美味しいものですが、やはりご飯との相性が良いようです。おにぎりやお茶漬けと一緒に食べるのが最も美味しい食べ方の代表例でしょう。また、その独特の香りと食感から、日本酒やビールのつまみとしても十分堪能できます。

山椒の品種によっては、収穫の楽なトゲのない山椒もあるそうですが、あまり味が良くない、とのことでした。また、都心で質の良い山椒新芽を売ることができれば、日光で売られている価格よりさらに値が上がるのでは、ということでした。これから先、十分な山椒の生産量を確保すれば、日光や那須のブランドとして、山椒によって十分な収入が得られ、地域の活性化に繋がる可能性があります。また山椒は、下草を払った森林でも十分育てることができるので、副収入を得るための一つの方法となるかもしれません。自然が生み出すこのような食材を、栃木県の人だけでなく、多くの人に味わってみたいと思いました。

(農学部 野口良造)

今回は、学部4年生または大学院修士(博士前期)課程2年生に、「就職活動体験」について聞いてみました。受験生や在学生の皆さんに、卒業・修了後の進路の1つである就職の参考になれば幸いです。

4年 男

就職活動を始めたのは3年次の12月からです。東京ビッグサイトの合同説明会に参加しました。私は行きたい会社の説明会、入りたいと思った会社の面接しか受けませんでした。内々定を買ったのは2月の月末で、凄く嬉しかった。大変だったことは、1週間の内、4回程度東京まで行き、面接や説明会に行かなければならなかったこと。嬉しかったことは、面接を通過出来たことです。就職活動は早くスタートすべきだと私は思っています。

4年 男

会社説明会や面接などのたびに東京へ行くのが、金銭的、時間的、体力的に大変だった。自分がどんな仕事をしたいのかまったくわからなかったで、どのように企業を絞ればいいのかわからなかった。でも、漠然とでも就職活動をしていくうちに、なんとなく自分がどんなことに向いているのが見えてくることはあると思う。

面接はやっていくうちに慣れていくので、数をこなした方がいい。

4年 男

私は留学していたため、就職活動を始めたのはすでに4年次の4月に入っていた。そして、留学したが4年で卒業したい私は、単位と時間の壁があり、1社を本気でがんばる事を決め、内定がいただけないときは、また違う国に留学しようと考えていた。しかし、1社でも気持ちが込められていれば、ちゃんと認めてくれる。就職活動はテクニックも必要だが、それ以上に熱心に取り組むことが大切であると感じた。



国際学部

会社説明会へ!

4年 男

3年次の10月から11月末にかけて20~30社、人材、教育関係の会社説明会に参加し3社の選考を受け、1月に第一志望の会社に内々定。

就職活動を通して自分のやりたいことが明確になっていきました。アドバイスは事前に会場を確認しておくこと、敬語を日頃から身に付けておくこと、考えをまとめて話す練習をすることです。

「会社に入ってこういうことをしたい」というビジョンを持って前向きに頑張ることが大切だと思います。

4年 男

3年次の6月から3月に公務員対策講座を受講。良い点は効率的に勉強を進められたところ。苦労した点は9月に実習で講座が受けられず、70時間分をDVDで補講したことです。

4年次の4月からは問題集で勉強を進め、5月半ばから8月に県庁をはじめ、市役所、国立大学法人等を受験。徐々に落ち着いて試験を受けられるようになっていきました。就職活動は自分を見つめ直す機会。「自分ならできる!」という気持ちで取り組んで下さい。

大学院教育学研究科修士課程2年 男

なぜ就職活動をするのだろう...私の就職活動はそのような問いから始まったと思います。正直なところ、就職活動を終えた今もその問いに対するはっきりした答えは出ていません。ただ、「後悔の残る選択だけはしたくない」という気持ちで就職活動に臨んだということだけは確かです。悩んだという経験は決して無駄にはなることはないと思います。大いに悩み、少しでも後悔のないみちを進んで欲しいと思います。



会場を確認!

学生アンケート

宇大生は アピール しよう!

アピール
しよう!

4年 男

自分はツキに恵まれて、就職活動らしい活動もせずに内々定を決めてしまいました。面接では個人的に面談を求められてそのまま2次面接へと進んだ挙句、SPIも皆が言うほど難しくもなく、自分にとってはただの通過点のようなものでした。世間ではもっと苦労していらっしゃる方が多いかと思いますが、やってみれば意外と何とかなるものなので気楽にやるのが一番いいのではないかと思います。就職活動を通じて感じたことです。

4年 男

私が就職活動を通じて学んだことは、自分を認めてもらうには何より自分を知ることが大切だということです。なぜなら、何かを認めるにはそのものを良く知っていなければならず、自分を一番理解できるのは自分だからです。それを理解した上で、十把一絡げにされている自分をいかにして見つけてもらうかを考え、受動的に自分を見てもらうことに頼るのではなく、能動的にアピールすることが内定への第一歩かと思えます。

4年 男

僕が就職活動を終えて今思うことは、もっと早い段階から活動を始めるべきだったということです。僕が活動を始めたのは3年次の3月の中頃でした。企業によってはエントリーを締め切っていたり、説明会の日程が終わっている企業もありました。説明会を回らなければ、自分にあった仕事や、やりたいと思う仕事をなかなか見つけることができず、焦りだけが募りました。結局僕の場合は3社目の学校推薦で無事に内々定を貰うことができました。

工学部

4年 男

自分のやりたい仕事を求めた。平行して民間も受けた。内々定は貰えず、最終的には公務員に受かった。嬉しかった。安心した。就職活動は面接が重要!民間での面接が公務員にも役立った。就職情報は就職情報サイトだけではなく、合同説明会や大学に来る求人、ジョブカフェなどもチェックすべき。

また、大学のセミナーや進路相談など大学の支援をフル活用すべき。就職活動でお金がかかるのは仕方ない。(グリーン車も贅沢して使いました。)

4年 男

地元が栃木で企業探し。しかし、筆記や面接ですぐに落選。やる気も無くなりかけた。そんな時に先輩からのアドバイスや、友達と気持ちを共有することで安心した。そこに製紙関連の企業から大学に求人。工場見学にも参加して興味が増し、選考を受けることに。

面接のポイントは、話すことを文章ではなくキーワードで覚えること。何とか内々定をもらいました!

人の繋がりが自分を支えてくれた。そして、焦らず、休む時は休んで良い。

4年 男

就職で一番考えたことは地元での就職。どんなにやりたい仕事でも地元以外の場所では出来ない仕事なら、それは諦めて地元で就職する。地元第一だった。内々定先は長期休みの際に、バイトをしていた所。1社目で内々定をもらったので、就職活動で苦労はしていない。大学でさまざまな分野に興味を持って、真面目に勉強すれば面接で非常に役立つ。遊ぶことも大事だが、勉強にも励むべき。

農学部

チェック
しよう!



Circle pin-up

「日本発祥のスポーツは?」と聞かれて何を思いつきますか?日本の伝統的な柔道・剣道から、近代的な競輪や駅伝まで数あるなかの一つがソフトテニスです。その歴史は明治時代に伝わった硬式テニスのボールの代わりに軟らかいゴムボールを使用したことに始まり、今やアジアを中心に世界中に広まりつつあるスポーツです。

そんなソフトテニスをもっと気軽に楽しもうと、2008年4月にサークルを立ち上げ、現在は中学・高校・さらには大学までのソフトテニス経験者もいれば、大学に入ってから初めてラケットを握った人まで所属し、週2回ゆったりと元気に活動しています。ですが、全員が毎回必ず参加しているわけではありません。好きなとき打ちたいときにきているので、活動の中で得られる一体感や達成感といった意味では他の部活・サークルに劣る部分はあるかもしれませんが、少しでも体を動かしたい、少しでもいいからソフトテニスをしていたいと



サークル紹介 ソフトテニスサークル

いう人にはちょうど良いサークルです。まだ本当に始まったばかりのサークルでいつまで活動していけるかわかりませんが、このスタイルでいけるところまでいってみたいと思います。

毎週木曜日夕方5時からと日曜日朝9時から、峰キャンパスのテニスコートにて活動していますので、この紹介を見て少しでも興味を持った方がいたら是非一度見学しいらしてください。いつでもお待ちしておりますよ。

ソフトテニスサークル代表: 沼尾卓志



第60回峰ヶ丘祭「歡曆」 11月22日(土) 23日(日・祝) 24日(月・振)



峰ヶ丘祭は60回という節目を迎えます。峰ヶ丘祭では毎年学生の中から出た案を元にテーマを決め、そのテーマに沿ってポスターやパンフレットを作成し、地域の協力を得て活動を行っています。

今年のテーマは「歡曆」、読み方は「かんれき」です。このテーマは、60歳で迎える還暦とかけっており、そこへさらにその記念の日に皆様を迎えることができるということへの気持ちを表すために「歡」の字を入れました。これを峰ヶ丘祭が始まるまでの約1ヵ月半の間、宇都宮大学の正門に看板として掲げ、学生は来たる峰ヶ丘祭の開催に向けて気持ちを高めています。

MELODY STAFF 主催の“360° 全力ライブ in 峰ヶ丘祭”では「オトナモード」と「Dirty Old Men」が来ます。音楽団体のライブやプロレス研究会によるプロレス、実行委員会主催のイベントなど、多数の企画が目白押しです。今年は60回の節目ということで、各団体方の出し物や模擬店も例年以上にパワーアップしていることでしょう（詳しくは、ホームページをご覧ください）。

60回目という記念の回なので実行委員一同、例年以上に張り切って企画を練り準備に取り組んでいます。11月22～24日はぜひ峰ヶ丘祭へお越しください。

峰ヶ丘祭実行委員会



*峰ヶ丘祭実行委員会ホームページ URL <http://minegaokasai.web.fc2.com/gakusai/index.html>

科学実験講座

植物の不思議探検隊

【日 時】第3回 12月13日(土)
13:00～16:00 「植物達も季節を感じる？」
・種子を分解して形や特徴を顕微鏡で観察し、植物の生殖について学ぼう。
・越冬や花の一斉開花の不思議について考えよう。実験室で地球温暖化をシミュレーションさせた果実を調べてみよう。
【場 所】宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター
【対 象】中学生以上
【定 員】20名
【参加費】無料

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター
担当者：加藤徳重
TEL: 028-649-5527 FAX: 028-649-8651
E-mail: katohnor@cc.utsunomiya-u.ac.jp

オープンキャンパス

12月21日(日)

農学部 峰キャンパス



お問い合わせ
農学部総務係 Tel.028-649-5398
<http://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp>

保育を語る会

【第5回】平成21年1月24日(土)
公開保育及び保育研究

テーマ「気になる子と保育
～気になる子とクラスの友達～」

参加費：200円(資料代)

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属幼稚園
TEL028-622-9051

教育学部附属特別支援学校

公開研究会

研究主題
将来の自立を目指した
教育内容とその実践

期 日 平成21年2月20日(金)
9:50～16:00
内 容 研究授業、全体会、分科会

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属特別支援学校
TEL028-621-3871

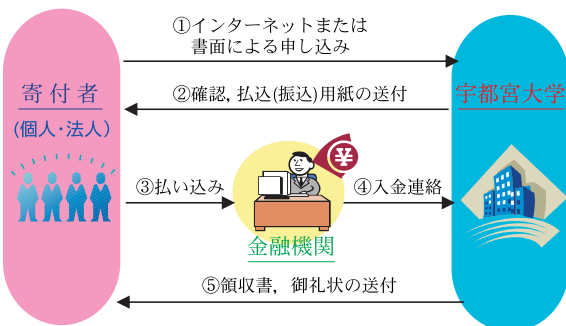
宇都宮大学基金 ～ご寄付のお願い～

平成20年3月、本学の財政基盤強化の一環として「宇都宮大学基金」を創設しました。

この基金では、(1)学生(外国人留学生を含む)・生徒・児童等に対する支援(2)国際交流の支援(3)教育研究活動等への助成(4)キャンパス環境の整備・充実の4本柱を中心に支援いたします。

皆様からのご協力を仰ぎ、引き続き地域貢献に資する人材の育成や国内外の多様な要請にも応え得る人材の育成等を目指してまいります。

皆様からのあたたかいご支援、ご協力をお願いいたします。



本基金ホームページはこちら、
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/>

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学基金事務局 TEL028-649-8177 FAX028-649-5060
E-mail: kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

お知らせ

役職員の報酬・給与等の水準公表について

国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について(ガイドライン)に基づき、平成19年度の役職員の報酬・給与等の水準を公表しています。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/jyuhoukoukai/index.html>



研究 Keyword

台湾と「現場」をめぐって

宇都宮大学国際学部准教授

松金 公正

PROFILE

宇都宮大学国際学部准教授
筑波大学第一学群人文学類卒業/
筑波大学大学院博士課程歴史・人
類学研究科史学専攻退学/修士
(文学)/専門分野:東洋史、中国
宗教社会史、台湾史、植民地史

宇都宮大学国際学部准教授 松金 公正



植民地時代に建設された日本式寺院



インフォーマントの僧侶とともに(右が松金)

私の博士後期課程の担当科目名は、「日台交流史研究」です。この名称からわかるように、現在、研究テーマとして注目しているのは、通常「台湾」と呼ばれている「地域」の歴史です。国立大学大学院に、台湾を明記した科目が設置されているのは珍しいと思います。台湾は日清戦争後、清朝から日本に割譲され、1895年から約50年間日本の植民地でした。戦後は中華民国の統治下に入り、中国共産党との内戦に敗れ、1949年に政府ごと台湾に移転しました。一方、日本政府は台湾と周辺島嶼しか実効統治していない中華民国を中国代表政府とみなしていたので、1952年から1972年までは日本と中華民国(台湾)の間には国交がありました。しかし、日本が中華人民共和国を中国の代表政府とし国交を結び、中華民国とは断交に及び、以後日台間には国交はありません。このように、日本と台湾の間の歴史は複雑かつ密接に結びついており、そこに研究面で面白さがあります。

台湾の歴史

現在、年に4〜5回は台湾で現地調査・研究を行っています。そんな形で台湾との行き来が始まったのは、大学院時代からです。しかし、当初、私は台湾そのものを研究するのではな

く、国民党が中国から台湾へ運んできた文献を使って「中国」の研究を行っていました。当時の私にとって台湾はいわば中国の代替地だったのです。その後、財団法人交流協会という機関に勤務していました。日華断交時に経済や文化など実務レベルでの交流を維持するために、外務省と通商産業省により設置された同協会は、東京と台北・高雄に事務所を備え、ビザ発給、邦人保護、留学生(国費相当)招聘など、実質上の在外公館の役割を果たしています。私は文化交流を担当していましたが、この機関に所属している間に、行政担当者や経済・報道関係者、文化人、現地生活する邦人などとの出会う機会がありました。この実務経験は、修学旅行や観光誘致、留学生招聘、農作物輸出など、日台間の教育・文化・経済交流の場で助言を求められた際に役立っています。

いま研究として

このように台湾そのものに触れる機会が多くなるにつれ、研究面においても、単なる中国の代替物ではなく、台湾を台湾として捉える必要性を感じるようになってきました。そして現在は、日本の植民地であった台湾が、いかに植民地支配を脱構築し、今日の社会や文化を形成してきたのかについて、以下のような視点から考察を進めています。



日本語世代の台湾人歌人(下段右と左2番目)と臨地演習の参加学生たち

ひとつは、植民地政策と仏教との関係性から、植民地の実態を探るといふものです。一般的に植民地において日本の仏教教団は、国策に追随し「皇民化政策」の一翼を担ったとされますが、そもそも教団は統治政策に機能するだけの能力を備えていたのでしょうか。日台双方の史料から、これまで看過されていた個々の仏教者というミクロな存在の活動を分析していくと、期待される役割を果たし得なかった教団の姿が垣間みえます。このように、抽象的なことばではなく、史料と調査にあくまで準拠することを試みながら、実際の植民地の諸相に迫ろうとしています。

歴史の流れのなかで

日本はかつて帝国として台湾を植民地として統治しましたが、台湾を放棄した後、帝国後という視点から十分に台湾と向き合ってきたませんでした。自らを台湾という場におきつつも、日本人としていかにして外在性を保ち続けるのか。その難しさを常に確認しながら、いったい植民地で何が行われたのか、そしてそれが現在とどのように関係しているのかを歴史的手法により分析するということが、それが今の私の仕事となっています。



植民地時期発行の台湾宗教関連書籍

フォトコンテストを実施します!

テーマ

私のお気に入りのキャンパスポイント
宇都宮大学構内のお気に入りの場所を、「UU now」で自慢してみませんか?

***募集要項**
応募要件:誰でも可/応募枚数:お一人様1枚のみ
撮影対象:宇都宮大学(峰、陽東キャンパス構内)
応募方法:電子メールで、タイトルに「UUnow フォトコンテスト」、本文に、住所、氏名、性別、年齢、電話番号、学籍番号(本学学生の場合)、写真を撮影した具体的な場所及びその場所にかかわるエピソードを明記して、宇都宮大学企画広報室まで。選考のうえ、次号にて発表、掲載します。また、優秀作品応募者若干名に本学関連グッズを差し上げます。
応募〆切:平成20年11月30日(日)着信分
E-mail: plan@miya.jmutsumomiya-u.ac.jp

*個人情報保護法に基づき、応募写真の著作権は、宇都宮大学に帰属するものとします。



編集後記

企画・編集
宇都宮大学企画広報室
UU Now 第15号編集委員
2008 Autumn



◇「UU Now」を担当している企画広報室は峰キャンパスの本部棟にあります。窓から見えるキャンパスはもう秋色。日ごとに黄味が増えています。この15号が出る頃には葉っぱもずいぶん落ちてしまっているのではないかと思います。この季節「千の風になって」を口ずさんでしまっています。
◇今号では、編集委員の連池さきさんと国際学部卒業の福田(旧姓)笹沼さんを取柄として、留学生センターの若山先生との対談に集まる留学生に話を聞いたり、皆さんから元気をもらいました。
◇「地域貢献レポート」では「自治体との連携」について紹介しています。「NOW FOOD」では野口先生が「山椒」について詳しく紹介しています。また、今回の「研究キーワード」は国際学部の松金先生、機会をつくって、台湾で人気のある寺院と信仰について、お話を伺おうと思っています。
◇「宇大生は今」は就職活動についてのコメント集。「INFORMATION」は今回、お知らせが盛りだくさんになりました。

広報室では、皆様の声をお待ちしております。

ご意見・ご要望などをお寄せください。
【宛先】
宇都宮大学 企画広報室
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
E-mail plan@miya.jmutsumomiya-u.ac.jp



宇都宮大学
携帯サイトへGO!